



松本亜季さんらが2004年に始めた毎週土曜日の「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」。仲間が引き継ぎ、今も続く=JR大阪駅前

沖縄の米軍基地を大阪で引き取ろう。大阪の市民グループがそんな活動を進めている。中心となっているのは、沖縄県名護市辺野古への米軍基地移設計画に反対する運動を続けてきた大阪府茨木市の松本亜季さん(32)。「自分たちの問題として考えよう」という思いで始めた活動だ。

# 沖縄の基地 引き取りたい



松本亜季さん

阪府の地図上の各所に、1ヶ所四方ほどの紙を置いていく。紙は、辺野古沖に造られる基地の大きさだ。引き取るならどこが現実的か。松本さんは福祉施設での仕事と2歳半の長男の子育てに追われながら、10人ほどの仲間と一緒に調べている。今後は候補地を決めて、大阪府知事への申し入れや署名活動などにも取り組む。「私たちが沖縄に基地を押しつけている側だと認識することが大事」。松本さんにとって、沖縄はレジャーで訪れる場所だった。大学入学後、先輩に

誘われ、沖縄の基地問題を考える講演会に参加。イラク戦争に沖縄の米兵が加わったと聞き、戦争と隣り合わせにある沖縄の現状を知つた。大学3年生だった2003年、辺野古へ足を運んだ。「地元の人が一生懸命に反対を訴えているのに、政府はすごく冷淡。はつとさせられた」翌04年、友人と大阪で「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」を始めた。毎週土曜、JR大阪駅前でビラを配り、署名を集めめた。しかし、普天間飛行場問題で、09年に誕生した民主党の鳩山由紀夫政権が「最低でも県外」を掲げたが、引き受けどころはなかつた。「現状を知つてもうれば、移設を止められるとつっていた。でも本土の人には、基地の危険性を知らないのではないか」と思つていた。

それは、自分に向けられた。松本さんは、基地を無視しているのではなく、知つていて沖縄を無視しているの

た問いにもなつた。沖縄の人々の訴えに、真剣に向き合つてきたか。「引き取ると決めることで、自分たちの問題として考える機会が増える」。そんな松本さんに、これまでの仲間だけでなく、沖縄関連の勉強会で出会つた人たちも賛同し、活動に加わってくれた。

12日午後2時から、大阪

市大正区コミュニティーセンターで、辺野古移設について考える講演会を開く。沖縄にルーツを持つ人々でつくる「沖縄に基地を押しつけない市民の会」と共催。東京大大学院の高橋哲哉教授(哲学)と、沖縄の建設会社社長で、前沖縄県商工会連合会会長、照屋義実さんを講師に招く。問い合わせは関西沖縄文庫(06

・6552・6709)

へ。

(笠井哲也)